

さいたま市長年頭記者会見

令和6年1月5日（金曜日）

午前11時00分開会

○ 進 行 それでは、定刻になりましたので、年頭に当たっての市長記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、記者クラブ幹事社、産経新聞社さん、進行よろしく願います。

○ 産経新聞 1月の幹事社を務めます産経新聞と申します。明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

 それでは、市長から年頭の挨拶をお願いいたします。

市長年頭あいさつ

○ 市 長 皆さん、新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

 1月1日、石川県能登地方を震源とする強い地震が発生しました。貴い命が失われ、大変な苦しみが続いている被災地の皆様に深い哀悼の意を表しますとともに、心からお見舞いを申し上げます。

 時間が経過するにつれ、被害状況が明らかになっていますが、その甚大さに胸の詰まる思いです。特に本市は東日本の各都市と連携を深めていることから、被災された皆様の状況を非常に案じています。

 そこで、1月2日には応急給水活動と漏水修繕を行うために、新潟市へ水道局の職員を派遣しました。また、昨日から全ての区役所の総合案内に被災された方への義援金箱を設置しました。今後についてもでき得る限りの支援をしたいと考えています。一刻も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

 さて、令和6年はたつ年、本市のPRキャラクター「つなが竜ヌウ」の年でございます。ヌウは、つなが竜の名のとおり、本市の魅力を伝え、人々のつながりを深める役割を担ってくれています。ヌウの年となる今年は、これまで以上に本市の魅力を発信し、市民や事業者の皆様との絆を深めていきたいと考えています。

 最後にお知らせがあります。来週8日月曜日から市公式ホームページがもっと便利に生まれ変わります。トップページは、スマートフォンでも見

やすくし、緊急時には画面最上部に情報を表示するようにしました。また、ユニバーサルデザインのフォントを採用し、偽サイト対策のため地方公共団体を示すURLへ変更を行っています。

さらに、15日月曜日からはホームページ上でも質問に答えられるように、AIチャットボットを導入します。市民の皆様には、ぜひ便利になったホームページをお使いいただきたいと思います。

今年が皆様にとって幸多い一年になることを心から祈念して、年始のご挨拶とします。

幹事社質問：今年の抱負

○ 産経新聞

ありがとうございました。

それでは、幹事社質問に移りますが、代表質問としてお願いいたします。今年の抱負、市長の考えを聞かせてください。よろしくお願いします。

○ 市 長

それでは、新年の抱負について申し上げます。

まず、昨年ですが、本市は政令指定都市に移行して20周年を迎えることができました。人口は134万人を突破し、0～14歳までの子どもの転入超過数は8年連続で全国第1位となるなど大都市として成長、発展を続けています。

最新の市民意識調査では、「住みやすい」、「住み続けたい」という方の割合がともに85%を超え、「住みたい街」「幸福度」などの民間によるランキング調査でも上位定着の高評価が続いているだけでなく、SDGsあるいはデジタルトランスフォーメーションに先進的に取り組む都市として首位を獲得することができました。また、昨年末には映画「翔んで埼玉」続編の大ヒットにより、名実ともに全国随一の注目度の高い、自治体となりました。本市が住むことを誇りに思える都市として、また政令指定都市として今日の発展に至りましたのも、ひとえに市民の皆様の市政へのご理解、ご協力のたまものにほかなりません。共に歩み、共に汗をかき、地域社会の発展に日々ご尽力をいただいていることに、改めて感謝を申し上げます。

さて、迎えた新年はコロナ禍からの回復をさらに推し進めながら新時代に向けて力強く歩みを進める、そんな年にしたいと思います。まずは、新型コロナウイルスが経済に与えた大きな打撃、そして長引く物価高騰に対応するため、国、県と連携し、きめ細やかな支援を実施してまいります。

また、地域経済の未来を見据え、産学官と連携したイノベーションの創出、高度なものづくり人材の育成など、新産業の創出を後押しします。

デジタルトランスフォーメーションは一層の推進を図ってまいります。現在検討中のデジタル地域通貨については、地域経済の活性化、行政サービスの利便性の向上、そして新たなビジネスの創出にもつながるよう、公民連携で導入に向けて準備してまいります。区役所の窓口では、来庁者が申請書に記入せずに各種証明書の発行や住民異動届などの手続きができるようになる「書かない窓口」の導入に向け取組を進めてまいります。

脱炭素社会の実現は喫緊の課題です。公共施設への太陽光発電設備や蓄電池の導入、ZEBの推進やLED化のほか、民間企業向けの導入支援など、脱炭素先行地域として全国を牽引する先駆的な取組を進めてまいります。

都市基盤整備の観点からは、都心での再開発、区画整理事業を着実に進め、浦和駅周辺まちづくりビジョン、大宮駅グランドセントラルステーション化構想、中央区役所周辺の公共施設再編基本計画に描いたそれぞれの将来像の実現に向けて、市民の皆様とともにまちづくりを進めてまいります。また、3月には七里駅の改修が完了し、そして道場三室線の与野南から新大宮バイパスまでの区間が開通する予定です。地下鉄7号線の延伸については、引き続き早期実現に向け取組を進めてまいります。

「健康で活力あるスポーツのまちさいたま」の実現に向けては、引き続き様々なスポーツ施策を実施してまいります。2月12日には、フルマラソンを含むマラソン大会「さいたまマラソン」を開催し、上級者だけでなく、初心者や子どもから大人、誰もが楽しみ参加できる大会を目指してまいります。そのほか、昨年も盛況であった「J:COM presents ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」は、次の大会で記念すべき第10回目の開催を迎えることとなります。本市としても、さらに大きな興奮と感動を体験いただける大会とすべく全力でサポートしてまいります。

まちづくりを着実に進める一方で、多くの課題も待ち受けています。少子高齢化はもとより、貧困、教育、医療といった社会的課題に向き合い、多様性を認め、全ての人が支え合いながらともに生活できるインクルーシブな社会を構築していかなければなりません。

「子育て楽しいさいたま市」の実現に向けて、2月には岩槻区に「療育センターひなぎく」を開設し、4月からは市内4校において放課後子ども教室と放課後児童クラブの両方の性質を併せ持つ一体型事業に向けたモデル事業をスタートします。

また、増加傾向にある不登校児童生徒を支援するため、「不登校等児童生徒支援センター（Growth）」において、昨年開始したメタバースを活用したオンラインによる学習支援等の充実を図るとともに、新たな選択肢の一つとして、本市独自の学びの多様化、学校の在り方について検討を進めてまいります。

また多くの高齢者の皆さんに社会の一員として活躍し続けていただくため、認知症サポーターによる「チームオレンジ」の取組などを通じ、「共生のまちづくり」を一層推進してまいります。

SDGs未来都市として、誰一人取り残さず、誰もが輝く社会の実現に向けた取組を全力で進めてまいります。

脱炭素などの地球規模の課題と人口減少、少子高齢化などの地域社会に到来する課題を1つずつ乗り越え、総合振興計画で掲げました本市の将来都市像、「上質な生活都市」、「東日本の中核都市」を実現し、誰もが住んでいることを誇りに思えるさいたま市を実現していくためには、皆様の協力が不可欠です。どうか本年も皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

○ 産経新聞

ありがとうございました。

代表質問の説明に対して質問がある方は、マイクを使用して質問をお願いします。

ないようですので、次に移ります。それでは、ほかに質問がある方はご質問をお願いいたします。

その他：能登半島地震における応援職員派遣について

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

能登半島地震に水道局職員の派遣ということですが、今後どのような支援を行っていく予定でしょうか。

○ 市長

それでは、質問にお答えします。今、国などと連携して発災時より情報収集体制を取っており、現時点での被災地の支援については、水道局にお

いて1月2日から新潟市へ職員を派遣し、応急給水活動及び漏水修繕を実施してきました。

また、1月4日付で指定都市市長会を通じて、石川県七尾市に対する支援要請が決定したため、本市としても先遣隊を明日1月6日から派遣します。現在、七尾市については名古屋市の災害マネジメント総括支援チームが派遣されていることから、名古屋市と調整を行いながら、連休明けから本格的な被災地支援を実施したいと考えています。

支援内容については、避難所運營業務、また建物被害認定調査、また罹災証明受付業務を想定しています。

- 埼玉新聞 規模としては、どれぐらいの規模を想定されているのでしょうか。
- 市 長 担当からお答えします。
- 事務局 先遣隊については2名ほどになります。その後については、大体10名ほどの依頼があります。
以上です。
- 埼玉新聞 職員の方には、どのような支援を市長として期待されますか。
- 市 長 特に今回、避難場所での運營業務、あるいは建物被害認定調査、罹災証明の受付ということで、生活、避難をされている方々をしっかりサポートしていくことと、被害から一日も早く復旧し、また復興につなげていくために、丁寧なサポートが必要になると思っています。そういう意味では、派遣する職員には、地元の皆さんにしっかりと寄り添っていただき、被災された皆さんの力になっていただけるように、心についてもしっかり支えることができるように対応していただきたいと思います。
- 読売新聞 読売新聞です。
今の派遣の関係で、一応確認なんですけども、これは七尾市から指定都市市長会を通じて支援の要請があったという整理でよろしいですか。
- 事務局 広域大規模災害時における指定都市市長会行動計画というものがあり、その枠組みにおいて対口支援が決定され、さいたま市が七尾市に派遣することになりました。
- 読売新聞 そうすると、七尾市にさいたま市が派遣されることに決まったのは、この指定都市市長会の行動計画の中で決まったと、例えばほかの政令市はほかの被災自治体に行く、七尾市の担当はさいたま市という、そういう理解

でよろしかったでしょうか。

○ 事務局 そういう理解で問題ありません。

○ 読売新聞 承知しました。ありがとうございます。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

今の関連で、10人ほどの派遣ということですが、市のどの方が行かれるのでしょうか。

○ 事務局 全庁的に、派遣の依頼をかけているので、全庁から10人程度を要請することで進めています。

○ 朝日新聞 特に何か部署はこの部署の人ということではなくて、全庁から、いろんな部署から集めるという感じなんですか。

○ 事務局 そのような形です。

その他：地下鉄7号線延伸の事業要請について

○ 毎日新聞 地下鉄7号線延伸のことなんですけれども、事業者への要請というのはどうなりそうでしょうか。

○ 市 長 現在、調査検討を行っており、鉄道運輸機構に対して概算建設費と概算工期の算定を委託しているところです。令和6年1月末の工期末に向けて最終的な取りまとめを行っている段階であると鉄道運輸機構から聞いています。

今後、それらを基に進めていきたいと考えています。

○ 毎日新聞 要請しないこともあるんですか。

○ 市 長 基本的には、それらを受けて事業者への要請という流れで考えていますが、まずはそういった調査の状況も踏まえることになると思います。

○ 毎日新聞 状況を踏まえて、判断は変わる可能性もあるということ。

○ 市 長 現時点では、取りまとめを行っている段階ですので、特にそれらについて申し上げられる状況ではありません。それを受けて年度末までに要請したいと申し上げてきていますので、まずは検討していくことになると思います。

その他：盆栽村100周年、世界盆栽大会における大宮盆栽への期待

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

昨年聞き忘れたんですけども、盆栽2025年、100周年というこ

とで、清水ちえりさんが26年の世界盆栽のアンバサダーということで、2年続けて大宮盆栽が世界で注目されるのかなと思うんですけども、来年、再来年に向けての年頭で、市長の意気込みをちょっと教えていただきたいんですけど。

○ 市 長 来年、盆栽村が100周年を迎えるという記念すべき年なので、私たちとしても、その100周年にどういったことをすべきか検討、準備を進めています。

100年を迎えるに当たって、中長期的な視点も含めて、これから盆栽、盆栽文化、あるいは盆栽村も含めまして、産業として、またまちづくりとして、どうあるべきかというビジョンをつくっていきたいと考えており、様々な方々から意見を伺っている段階です。

また、再来年には、さいたま市でも開催された世界盆栽大会がマレーシアのクアラルンプール市で開催されるということで、さいたま市の盆栽文化とも非常にご縁のある清水ちえりさんがアンバサダーとして就任されています。そういう意味では来年、あるいは再来年が、盆栽を多くの皆さんに、国内外に発信できる大きなチャンスになると思っていますので、中長期的な視点も含めて、その準備と計画、検討を進めている状況です。

○ 埼玉新聞 ビジョンというのは、いつ頃できる見通しなんでしょうか。

○ 市 長 詳細については後ほどお知らせします。

その他：市PTA協議会の日本PTA協議会からの脱退について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

さいたま市PTA協議会のお話ですけども、昨年12月に日本PTAから年度末で脱会するというふうに発表しているんですけども、その受け止めをお願いいたします。

○ 市 長 さいたま市PTA協議会が公益社団法人日本PTA全国協議会を今年度末で脱退することは承知しています。さいたま市PTA協議会は任意の社会教育関係団体であり、その団体の理事会で判断された事柄ですので、私としてはさいたま市PTA協議会としての決定を尊重したいと考えています。さいたま市PTA協議会には各学校の単位PTAが多数加入していますので、今後日本PTA全国協議会退会による不利益がないように対応し

ていただきたいと考えています。

○ 埼玉新聞 会長さんも会員に不利益が生じないようにするとおっしゃっているんですけども、市としては不安の声もあるそうなので、市として何か支援とか、そういったことは考えられるのでしょうか。

○ 市 長 基本的には不利益がないように対応していただいているということなので、その対応などについても見守っていきたいと考えています。その上で、何かサポートができるのかについては、改めて考えることになると思います。

その他：ロッテ2軍拠点の移転について

○ 埼玉新聞 ロッテの二軍球場ですが、これは私たちも報道でしか知らないんですけども、市としてはどういうふうに把握して、今後どのように対応されるのでしょうか。

○ 市 長 今回の千葉ロッテマリーンズの二軍の本拠地の移転については、市に対して正式に話があったということではないので、私も報道で初めて知りました。

ロッテ、これは株式会社ロッテ及び株式会社千葉ロッテマリーンズですが、これまで南区など地域で行われるイベントに協賛をしていたり、過去に小学生を対象とした野球教室で選手に指導していただいたり、また災害時に球場を避難場所として使用する覚書を結ばせていただくなど、地域に対して様々なご協力をいただき、地域の皆様に親しまれています。こういったことを考えると、報道内容は非常に残念なことであると考えています。

○ 埼玉新聞 今後の対応なんかは検討されているのでしょうか。

○ 市 長 今後については、まだ正式に話ありませんが、いずれにしても動向を見守っていくことになると思います。

○ 埼玉新聞 一部では、沼影市民プールの近接地、代替地に適任じゃないかという声が上がっているんですけども、その辺はいかがですか。

○ 市 長 これまでの経緯も含めて説明すると、屋内のプールについては、沼影小学校の解体の敷地の一部に建設予定のスポーツ施設を造る予定ですが、一方で沼影公園屋内のプールを解体してからスポーツ施設ができるまでの期間が7年ありますが、その間に浦和大里小学校に代替プールを造る決定を

させていただきました。教育委員会においては、令和2年度に武蔵浦和駅周辺地区において一定規模を有する義務教育学校に適した候補地を調査する中で、候補地の一つとなった経緯もありますが、工場立地法における工場敷地内の緑地に定められている球場となっていますので、対象からは除外して検討してまいりました。

今回記事を見る限りでは、千葉ロッテマリーンズが来年から二軍施設の移転について検討を始めるとの記事になっていますので、千葉ロッテマリーンズとして二軍施設の跡地をどのように利用するかも明らかになっていません。したがって、市として千葉ロッテマリーンズの二軍施設について、今後の具体的な検討をどうするかについては、現時点では市としてお答えする段階ではないと考えています。

○ 毎日新聞 県が進めている順天堂大附属病院の新病院誘致についてなんですが、さいたま市のほうでも土地のほうを無償で貸すか貸さないかという話になっていると思いますが、この間大学のほうが基本設計の概要を公表されまして、その検査棟の一部にスポーツリハビリと書かれて、これが地域貢献というようなことも書かれて、地域貢献もできると書かれていましたけど、市が求めている、順天にどのような地域貢献ができるかという質問をされていたと思いますが、その回答は来たんでしょうか。

○ 市長 まず、市有地の土地の貸付条件については、学校法人順天堂が本市に対してどのような地域貢献を行っていただけるかなど、公共性、また公益性の観点から総合的に判断していくとお伝えしています。地域貢献の内容については、現在学校法人順天堂において具体的に検討を行っており、本市の関係所管課と協議を重ねているところです。本市としては、大学附属病院が開院し、地域貢献もしていただくことで、今後の市政の推進または発展に寄与することを期待しているところです。

○ 毎日新聞 そもそも市が貸すかどうか、無償で。について、今回示された検査棟の一部にスポーツリハビリと書かれている、これを貸すに値するものと評価しているのかどうか聞きたいんですが。

○ 市長 まず、貸付けの条件については今検討しているところで、お互いにまだキャッチボールしている段階です。そこでの結論が出た段階で判断していくことになると思います。それは、先ほど申し上げたとおり、今言ったス

スポーツ医学の拠点なども含めて、公共性、公益性の観点から判断していくことになると考えています。現状としては、まだキャッチボールをしている最中ですので、その中で最終的に判断することになります。

○ 産経新聞 どうもご説明ありがとうございました。

以上をもちまして本日の記者からの質問は終了といたします。

○ 進 行 以上をもちまして年頭に当たっての市長記者会見を終了します。

なお、次回の開催は1月17日水曜日、午後1時30分からを予定しています。本日はありがとうございました。

午前11時30分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。